

## 先導的産業技術創出事業 事後評価について

平成23年度に採択され、平成25年6月末までに終了した計3件の当事業研究テーマについて事後評価を実施した。

### 1. 評価の結果

評価	件数
極めて優れている	0テーマ
優れている	3テーマ
概ね妥当である	0テーマ
妥当とは言えない	0テーマ

### 2. 評価対象の研究テーマと評価結果

評価対象となった研究テーマと評価結果は、(別紙)のとおり。

### 3. 評価の方法

#### (1) 評価の手順

以下の書類に基づき、1研究テーマあたり複数の評価委員による書面評価を行った。

- ・ 研究成果報告書（研究代表者が作成した最終版）
- ・ 研究開発提案書（研究代表者が作成した応募時の提案書）
- ・ 補足事項説明資料（事後評価実施にあたり研究代表者が任意で提出した補足資料）

#### (2) 評点の基準

評点は以下のA～Dの4段階とした。

A: 極めて優れている B: 優れている C: 概ね妥当である D: 妥当とは言えない

#### (3) 評価項目と視点

評価項目	視点
1) 目標の達成度	・成果は目標値をクリアしているか。 ・全体としての目標達成度はどの程度か。
2) 成果の意義・波及効果	・成果には新規性・独創性・革新性があるか。 ・成果は、世界的に見てどの程度の水準にあるか。 ・成果は、新たな技術領域を開拓することにつながるか。 ・投入された予算に見合った成果が得られているか。 ・成果は関連分野への技術的波及効果及び経済的波及効果を期待できるものか。 ・研究の実施自体が当該分野の研究開発を促進するなどの波及効果を生じているか。
3) 特許・成果発表	・特許等(特許、著作権等)は適切に出願されているか。 ・外国での積極的活用が想定される場合、外国の特許を取得するための国際出願が適切にされているか。 ・論文発表の質や量は十分か。

4) 成果の実用化可能性	・産業技術として実用化・事業化に結びつく可能性があるか。 ・実用化に向けたアプローチ(企業連携等)は行われているか。
5) 総合評価	上記1)～4)の評価項目を踏まえての総合的な評価

(4) 評価

5) 総合評価について、A=3、B=2、C=1、D=0と数値に換算して委員の評点の平均を算出し、各テーマの評価点とした。この評価点に基づき、以下の4段階の評価結果を決定した。

評価点	評価
2.50～3.00	極めて優れている
1.50～2.49	優れている
0.50～1.49	概ね妥当である
0.00～0.49	妥当とは言えない

4. 評価委員の名簿

氏名	機関名	役職
波多野 睦子	国立大学法人東京工業大学	教授
梅村 敏夫	株式会社エムテック	取締役 業務統括部長
徳下 善孝	電源開発株式会社	シニアエキスパート
中村 恒明	東京ガス株式会社	事業部長

(敬称略、順不同)

(別紙)

No.	技術分野	プロジェクト ID	研究テーマ名	所属機関	研究代表者
1	拠点連携研究	11A06006c	粉体プロセス科学に立脚した軸受用ナノ粒子分散 Si <sub>3</sub> N <sub>4</sub> セラミックスの応用研究	国立大学法人横浜国立大学	多々見 純一
2	拠点連携研究	11A08008d	低エネルギー消費型高輝度・小型 LED 水中照明による低環境負荷型灯火漁業の実証研究	国立大学法人鹿児島大学	水田 敬
3	拠点連携研究	11A09009d	高効率最適設計に向けた X 線 CT スキャナーの形状抽出高精度化技術開発	国立大学法人東京大学	大竹 豊